

立命館大学 国際関係学部

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-1211 E-mail: irpost01@st.ritsumeai.ac.jp



先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど
最新の情報はこちら

www.ritsumeai.ac.jp/ir/



R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

立命館大学 国際関係学部

Window to the World

日本から地球を、地球から日本を見る。



AY2021

RITSUMEIKAN UNIVERSITY COLLEGE OF
INTERNATIONAL RELATIONS

Our Next Chapter

Evolving College of International Relations

枠を超えた進化に挑む。

FRONT-RUNNER 最先端を走り続ける。

立命館大学国際関係学部は1988年に西日本初の国際系学部として設立され、この30年間、国際関係学教育・研究の地帯を切り拓いてきました。現在の国際社会の課題は、武力紛争や経済摩擦、移民問題など国家間の対立を伴うもの、また、気候変動、資源、生物多様性、人権など国の枠を超えて取り組むべきものなど、非常に多様で複雑です。こうした課題は一朝一夕に解決するものではありませんが、それへの果敢な挑戦を積み重ねることは非常に重要です。

現在、世界中に広がっている新型コロナウイルス感染症は、グローバル化の進展が私たちの生活に直結していることを如実に示しています。そして「ポストコロナ」の生活様式「ニューノーマル」が模索されていますが、それがどのようなものであれ、グローバルな協力が不可欠です。つまり、国際関係学が現在の社会においてますますその重要性を高めているのです。

わたしたちは、学生のみならず幅広い視野と見識、柔軟な思考力を養ってもらい、そして、新しい可能性に常に挑戦しつづける力を身につけてほしいと思っています。本学部の多様なバックグラウンドを持つ教員がそれを後押しします。「立命関関」はこれからも国際社会の課題に挑戦し続け、時代を切り拓く学部として発展していきます。

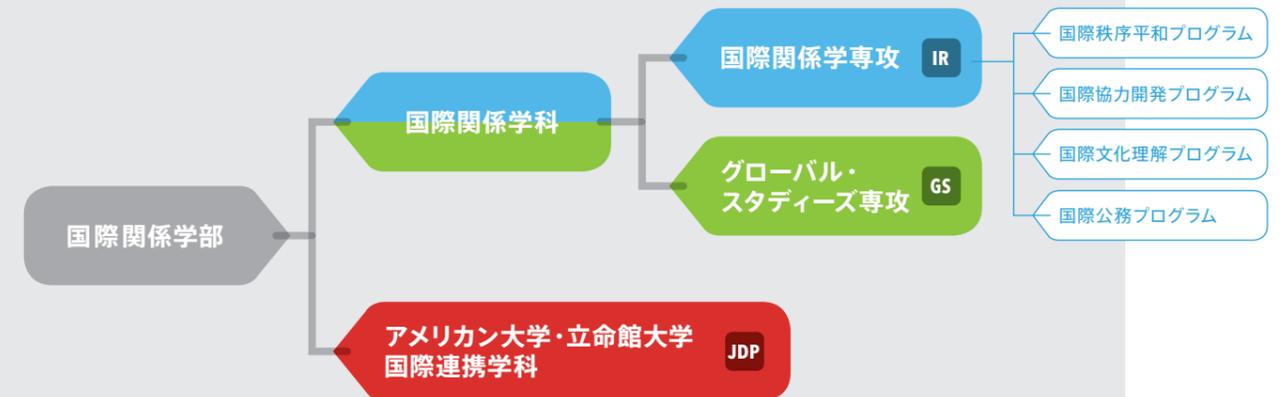


国際関係学部 学部長
河村 律子

IR GS 国際関係学科

国際関係学部は、世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間です。多様なバックグラウンドを持った、留学生、教授陣が揃っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得ることができるでしょう。多文化が融合する空間で学び、国際的な感覚と知性を磨き、世界が求めるグローバルな見識と行動力を養います。現代の国際社会が抱える問題を多面的に探

求し、既成概念にとらわれずに自分の頭で考え、問題解決に挑みます。主に日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システムを活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。



JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

Over a quarter century, scholarly exchange has grown and bloomed between Kyoto and Washington D.C.

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長期に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）をアメリカン大学と共同で開設しました。

プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。

IR at a glance

34 国・地域 159 大学・機関

多様な留学先・プログラムに挑戦できます。独自の研修、ボランティア等での海外渡航を含めると、大半の学生が海外活動に挑戦しています。



11 国+ 27 国・地域

11国から集った教員と27国・地域から集った288名の留学生がともに学びます。



1226 年の都 KYOTO

1226年の都、文化と歴史の街であり、大学の町である京都、衣笠キャンパスで学びます。



英語による授業 98

IR（日本語基準）専攻とGS（英語基準）専攻の2専攻制。日本語基準専攻で入学しても98もの英語で開講される授業にチャレンジできます。



*一定の語学力が必要です

世界で活躍する 8000 人

グローバル企業、外務省、国際機関、NGOをはじめとした各分野で約8000名の卒業生が活躍しています。



立命館大学国際関係研究科は日本唯一の APSIA のメンバーです。

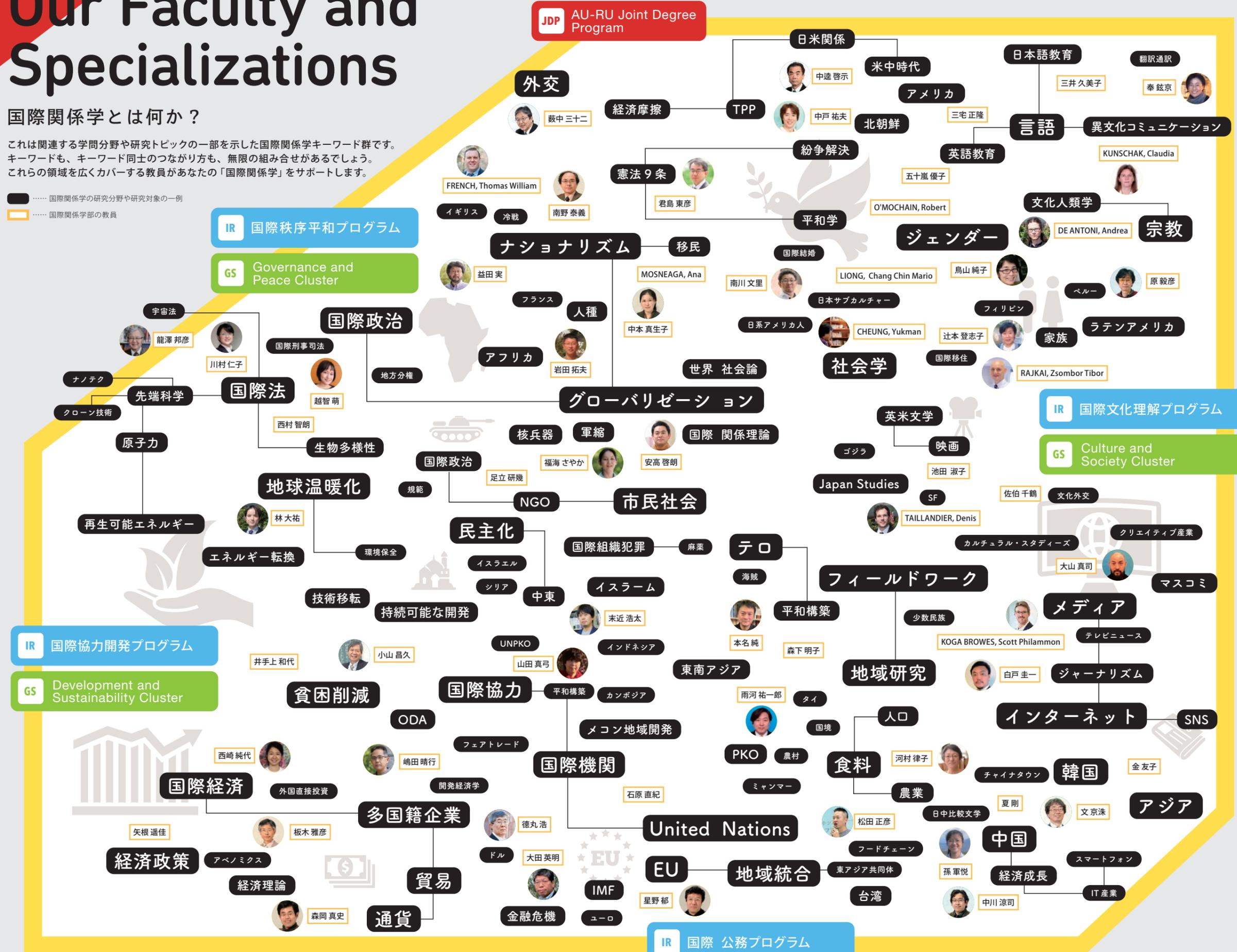
APSIAとは、Association of Professional Schools of International Affairsの略で、国際関係・安全保障・平和問題、といった国際関係学が取り扱う諸問題に関する教育の実施と、この分野における高度専門知識を持つ人材の養成を目的に設立された非営利組織です。ハーバード大学、コロンビア大学、エール大学、アメリカン大学などが加盟しています。日本からは、立命館大学国際関係研究科が唯一の正規会員として加盟しています。

Our Faculty and Specializations

国際関係学とは何か？

これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合わせがあります。これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。

● 国際関係学の研究分野や研究対象の一例
 □ 国際関係学部の教員



SPECIAL CONTENTS

国際関係学とは何か？

教員が国際関係学の視点で現代社会のトピックを紐解き、学部の学びや自身の研究を紹介する特設ホームページです。国際関係学で何を学ぶのか、その可能性が見えてくるかもしれません。

KEYWORD #01
国際協力・開発援助
 東南アジアで体験する
 これからの国際援助の在り方
 嶋田 晴行

KEYWORD #02
新しい脅威
 麻薬産業が
 国や国際関係に与える影響
 福海 さやか

KEYWORD #03
日本再発見
 自分の国を正しく知ることが
 国際化につながる
 ライカイジョンボルティボル

KEYWORD #04
**先端科学技術と
グローバル・ロー**
 ナノテクノロジー、AI、ロボット兵器。
 科学技術のリスクを国際社会はどう管理するか。
 川村 仁子

KEYWORD #05
多文化社会
 「移民の国」アメリカの経験から、
 日本型の多文化社会を展望する。
 南川 文里

KEYWORD #06
中東の政治
 中東の政治を
 「よりよく」理解するために
 末近 浩太

www.ritsumeai.ac.jp/
 ir/study/

* 2020年度現在の所属教員です

国際関係学科

Department of International Relations

多文化が融合する空間で学ぶ。

IR 国際関係学専攻 International Relations Major

国際関係学専攻
についての詳細はこちら



国際秩序の動態を歴史、法、政治、解決・実現方法の四つの角度から学ぶ「国際秩序平和プログラム」。持続可能でバランスの取れた国際協力や開発のあり方を学際的、体系的、実践的に探求する「国際協力開発プログラム」。国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学び多文化共生の道を探る「国際文化理解プログラム」。国際機関、国家および自治体の公務行政について学ぶ「国際公務プログラム」。個々の関心事に沿ったプログラムを選択し、より専門的に深めていきます。



国際秩序平和プログラム

国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る。

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際関係論・国際法・国際経済などの分野から総合的に学修。戦争・平和・人権から、紛争や経済摩擦まで、幅広い問題を解決するための新たな手法を探ります。

国際協力開発プログラム

持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方を学ぶ。

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。

国際文化理解プログラム

高度な異文化理解力を身につけ共生社会の実現にアプローチ。

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。

国際公務プログラム

国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

外交官をはじめとする国家公務員や国連職員、地域を支える地方公務員など、行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。

GS グローバル・スタディーズ専攻 Global Studies Major

グローバル・スタディーズ専攻
についての詳細はこちら



2011年に開始した「国際関係学」を英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。開設当初は1学年60名でスタートしましたが、強い要望に応え、2018年からは1学年100名に定員を拡大しました。今では28カ国以上から集まる学生と11カ国から集まる教員が多様な文化を抱える学びの集団を形成しています。2018年度カリキュラム改革を経て、プログラム間の境界を越えて自由に科目を選択できる、より学際的なコースを提供します。



This major seeks to stimulate a systematic learning, while going beyond the borders of academic, scientific, disciplines. The program is designed to be flexible, with students able to design their learning programs based on their interests and career goals. The program puts a focus on courses related to Japan and Asia and has increased these courses. In the first year, students take a range of introductory and foundation courses as well as academic skills courses, which develop a foundation for their studies in English. From the second year, students start their study of core courses choosing from a mixture of 3 clusters detailed below.

Governance and Peace Cluster

International Law, Security Studies, Global Political Economy, Comparative and Global Governance, Peace and Conflict Studies, International Organization, International Human Rights, Advanced Topics in International Relations

Development and Sustainability Cluster

Development Studies, Global Environmental Issues, Microeconomics, International Trade and Investment, International Finance, Global Civil Society and Development, Advanced Topics in International Relations

Culture and Society Cluster

Race and Ethnicity in the Modern World, Media and Society, Cultural Awareness and Communication, Global Sociology, International Migration, Topics in Identity, Advanced Topics in International Relations

アメリカン大学・立命館大学

JDP 国際連携学科

American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学・立命館大学
国際連携学科
についての詳細はこちら



国際政治の中核で学ぶ。

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）では、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位（学士「グローバル国際関係学」）を取得します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、国際関係学において全米9位（学部）*。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人と人の交わりを可能にし、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。

* Foreign Policy Magazine (2018)のランキング



R 立命館大学 HOME	1年目		2年目		3年目		4年目	
	Spring 1	Fall 2	Spring 3	Fall 4	Spring 5	Fall 6	Spring 7	Fall 8
	立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
	Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		
	Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods			Senior Capstone Program (Seminar)		
	Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses					

グローバル国際関係学とは

JDPでは、西洋の国際関係学の枠組みを超えた、「グローバル国際関係学」を修得することを目指しています。これまでの「国際関係学 (IR)」は、西洋、とりわけ英米的視点によって発展してきましたが、国際社会の多元化に伴い非西洋的視点の必要性が国際関係学の世界でも主張されています。こうした状況のなかで、非西洋社会に位置しつつもいち早く西洋をモデルとした近代化を成し遂げた日本社会において、西洋および非西洋という二項対立的視点を超えた新たな国際関係学を学ぶ意義と必要性が高まっています。アメリカと日本、二つの視点から国際関係学を考えていく新しい挑戦です。

ラーニングスケジュール

立命館大学から学修を開始する「RU Home Students」は、入学後、最初の1年半を立命館大学で学びます。授業は全て英語で行われ、国際関係学部在籍する多くの留学生（2020年度27ヶ国）や、立命館大学で学修中のアメリカン大学の学生と共にグローバルな環境下で学びます。2回生の秋学期からアメリカン大学へ学ぶキャンパスを移動し、4回生春学期までの2年間をアメリカン大学で学びます。4回生の5月末ごろに日本へ帰国、4回生の秋学期にもう一度立命館大学で学び、最後の1学期で4年間の集大成である卒業研究をまとめ、卒業します。

学修支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。プログラムでは、参加学生が着実に充実した4年間を過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語能力向上の支援や進路・就職面のキャリア・サポートなど、日本の大学ならではのサポートを受けることができると同時に、アカデミック・アドバイザーといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学修サポートが実施されます。

Learning at IR

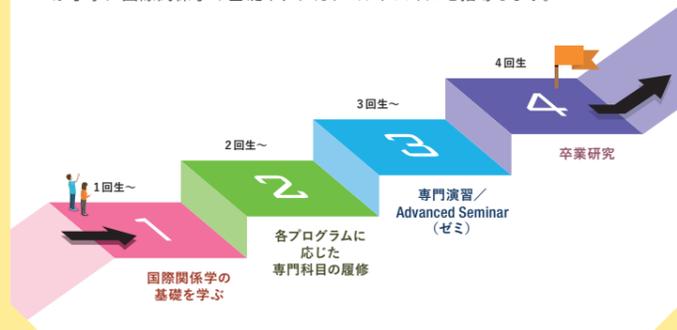


特徴ある学び

国際関係学部では2018年度入学者カリキュラムより「卒業研究」が必修となり、ゼミでのまなびや4年間の学びの集大成である卒業研究がより質の高いものになるように、1回生時に4年間の計画を立て、必要なスキルを磨いていくことがますます重要になっています。キャンパスでは、全ての学生が充実した4年間の学びを得られるように、様々なサポートを行っています。

丁寧な新入生サポート (First Year Retreat)

国際関係学部での4年間の学びの計画を立てるため、新入生対象には丁寧なオリエンテーションが行われます。充実した学びを実現する上で重要なプログラム選択やゼミ選択、また留学等の様々な学びの機会や将来の進路選択等について学部の教職員や先輩たちとともに模索し、「学びと成長」の礎を築きます。基礎演習/Introductory Seminarでは、小規模クラスで教員アドバイザーが丁寧に国際関係学の基礎や、アカデミックスキルを指導します。



日本語と英語を越境して学ぶ「バイリンガルラーナー」

基準の語学力に到達した学生は、自分が所属する専攻、言語をこえて科目を履修できます。日本のキャンパスにしながら、英語圏に留学するのと同じ多くの国際学生と英語で学ぶ学習環境が用意されています。一定の科目を修得した学生は「言語や文化を越境する力を有した「バイリンガルラーナー」として認定されます。



ライティング・チュートリアル

大学の学修の集大成である卒業論文を執筆する際に必要な「アカデミック・ライティング」を身につけるための個別サポートプログラムです(日本語および英語)。論文作成経験が豊富な国際関係研究科の院生および学部の上回生の1対1のサポートにより、必要なスキルを磨きます。



キャリア支援教育

国際関係学部生の興味・関心と希望する進路に応じたキャリア形成支援の一貫として、行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深める「プロフェッショナル・ワークショップ」、実務の現状を理解し、自らの適性を認識する「インターンシップ」、実践的なキャリア形成だけでなく、原理的、理論的に自らのキャリア問題を捉える「キャリア・デザイン」など、正課のキャリア教育科目を開講しています。



多様なゲストスピーカー

国際関係学部は、最先端の研究や、実社会と座学のつながりを重視し、多様なゲストスピーカーを授業等に招聘しています。外交や国際問題のエキスパートや、ジャーナリスト、文化活動の専門家や、海外の大学の研究者等が頻繁に来学し、学生はレクチャーへの参加、ディスカッションを通じて、それらのゲストから学ぶことができます。



グローバルエデュケーションを支える国際英語プログラム

TOEFL®およびCEFRの国際標準規格を基にした能力別クラス編成(25名まで)を行い、四つのコース、国際英語(EIS)・ブリッジコース(BIS)・アカデミックスキル(AS)・集中コース(IEIS)で英語による専門講義の履修(クロス履修)と交換留学に備えます。

Point #01

オリエンテーションで行うPlacement Testで四つのレベル(上級・準上級・中級・基礎クラス)に分け、各自の学習習熟度に合った到達目標を設定。

Point #02

交換留学を希望する学生は選考の上、集中コース(IEIS)を週3コマまで履修可能。

Point #03

国際関係学専攻生は、2年次以降に選考の上、アカデミック・スキル(AS)を履修可能。

	1年次				2年次			3年次			
	第1学期	第1学期(選択)	第2学期	第2学期(選択)	第1学期	第1学期(選択)	第1学期(選択)	第2学期			
IR 国際関係学専攻	EIS I 週2コマ	EIS II 週2コマ	IEIS I-III 各週1コマ 留学希望者	EIS III 週2コマ	EIS IV 週2コマ	IEIS IV-VI 各週1コマ 留学希望者	BIS I-II 各週1コマ	IEIS I-III 各週1コマ 留学希望者	AS I-III 各週2コマ	BIS III 週1コマ	→クロス履修
GS グローバル・スタディーズ専攻	AS I 週2コマ	AS II 週2コマ	4月入学者 IEIS I-III 各週1コマ 9月入学者 IEIS IV-VI 各週1コマ	AS III 週2コマ	4月入学者 IEIS IV-VI 各週1コマ 9月入学者 IEIS I-III 各週1コマ	→英語による専門講義			留学へ		
JDP 国際連携学科	AS I 週2コマ	AS II 週2コマ	IEIS I-III 各週1コマ	AS III 週2コマ	IEIS IV-VI 各週1コマ	→英語による専門講義			アメリカン大学へ		

- IR 国際関係学専攻**
 - BIS I-III リーディング、クリティカル・シンキング
 - EIS II オーラル・コミュニケーション
 - EIS IV アカデミック・ライティング
 - BIS I-II 国際秩序平和/国際公務/国際協力開発/国際文化理解 各プログラム対応
 - BIS III テーマ自由選択
- IR GS JDP 国際関係学部共通(選択)**
 - IEIS I-IV 語彙とリーディング・スキル
 - IEIS II-V リスニング・スピーキングスキル
 - IEIS III-VI 文法とライティング・スキル

- GS JDP グローバル・スタディーズ専攻 および 国際連携学科**
 - AS I Learning theories, historical developments and current issues in IR while developing reading and critical thinking skills
 - AS II Academic writing skills, research and referencing, and IT skills. Autonomous learning and team work
 - AS III Solidification of writing and research and academic interaction skills. Conduction of in-depth research on a topic of a student's choice within IR

Voice



櫻井 巴絵 さん
IR専攻4回生

入学時は周囲のレベルの高さに圧倒されていましたが、4年間で英語力を大きく伸ばすことができました。それは、学内イベントや留学など英語を話すチャンスをつかみにいったことと、授業ごとに出される大量の課題を、仲間と一緒に、互いの得意分野を活かしてアドバイスし合いながら進めていけたからだと思います。そのことがモチベーションの維持、ひいては英語力の向上につながりました。専門分野の学びを深めることも目的にした留学先は、マレーシア、マラ工科大学です。クラスメイトの大半がイスラム教徒という環境で、宗教、政治、外交の話詳しく教えてもらい、現地で話を聞いて知ることの大切さを学びました。また「私は日本のことをこんなに説明できるだろうか?」と気づかされ、単に知って満足するのではなく、学び続けることの大切さも学びました。

Timeline

4年間の学び

国際関係学部の4年間

をWebページで詳しく紹介しています

www.ritsumei.ac.jp/ir/life/



1 1回生 〈言語〉と〈理論〉の基礎を育む



2 2回生 専門的分野への第一歩と〈海外への挑戦〉



3 3回生 学びの深化（実践と発信）と地域研究



4 4回生 キャリアの選択と学びの集大成



国際英語プログラム English for International Studies (EIS) と Academic Skills (AS)

EISは、3C (Content-based, Collaborative learning, Critical Thinking) をベースに国際関係学の知見を深めるための高度な専門英語運用能力を養います。アカデミックな英語運用能力を習得することによって、問題を多角的に捉え、批判的に読み解く力と同時に説得力のある主張で発信力を養います。

外国語の選択 (国際関係学科)

国内入試入学者は、英語とフランス語・中国語・スペイン語・ドイツ語・朝鮮語のいずれかを、留学生入試入学者は、英語基準入試の入学者は日本語を、日本語基準入試の入学者は、英語と日本語を学修します。また、希望する学生は国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することが可能です。

基礎演習 / Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

基礎科目と基幹科目 / General Education Courses & Foundation Courses

国際関係学専攻では、法学、政治学、経済学など、グローバル・スタディーズ専攻では、Politics for Global Studies などにより、国際関係学「理論」の基礎を築きます。

Student Voice

[基礎演習 / Introductory Seminar]
グループワークの進め方を身につけることができた
尾澤 峻太 さん (IR専攻2回生)

グループワークが印象に残っています。熱心さのあまり一人で物事を進めがちだった私も、何度か繰り返すうちに、話し合いの中から仲間の意見を引き出し、グループの総意を導くことができるようになっていきました。これは国際関係においても不可欠なプロセスだと思います。留学生、帰国子女、留学経験者など国際的な視点を強く持つ学生と共にグループワークやディスカッションを行うことによって、さまざまな視点を知ることができたのも刺激的でした。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング / Global Simulation Gaming (GSG)

国際関係学専攻とグローバル・スタディーズ専攻を統合し、2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。

国際関係学セミナー (IRセミナー) Global Studies Seminar (GSセミナー)

国際関係学 (IR) 専攻の4つのプログラムやグローバル・スタディーズ専攻の三つのクラスターに制限されることなく、自由に選択した分野を、より専門的に学び始めます。IR/GSセミナーでは、担当教員のサポートを受けながら、各分野の古典や基本的文献の購読や読み込むトレーニングを行います。

BIS (Bridge to International Studies)

1年次のEISと英語で行われる専門科目との橋渡しをする科目です。選択したプログラムごとのコースに分かれ、専門分野の主要概念を学びながら、英語の四技能を修得することを目標としています。習熟度別クラス編成を行い、学生のレベルに合わせて、グループワーク、プレゼンテーション、ディベートおよびクラス全体のディスカッションなどを行います。ノートの取り方からエッセイの作成までさまざまなライティングも行います。

Student Voice

[グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)]
アメリカ大統領の役割を通して実践的な国際交渉を体験
ハドソン・アシュリー・ニコル さん (GS専攻3回生)

GSGにおける私の役割はアメリカ大統領。これまでに学んだことを活かし、他国の首脳と協力し合うことなどを通して、交渉、議題作成、政策立案などについてより実践的な立場から学ぶことができました。GSGでの経験は私のコミュニケーションスキルを向上させてくれたと思います。学期中、同じメンバーと緊密にやりとりを行うので、仲間をより深く知ることのできる機会でもありました。数多くあるグループワークの中でも、GSGは特に興味深いものでした。

専門演習 / Advanced Seminar

3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。すべての学生がゼミ (専門演習・アドバンストセミナー) に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタームペーパーを作成します。

地域研究科目 / Area Studies Courses

専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域 (多くの場合、日本) と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目 / Core Program Courses

国際関係の諸側面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際機構論、開発政策論、メディア文化論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各プログラムや各クラスターにおける理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。

Student Voice

[専門演習 / Advanced Seminar]
白熱した議論こそが視野を広げるのに役立つ
ティエン チェ ジョー さん (GS専攻4回生)

講義よりもディベートやディスカッションに重点がおかれていることが大きな魅力の授業です。クラスには多様なバックグラウンドを持つ学生が多く、誰もが独自の視点や意見を持っています。そのため、ディベートやディスカッションでは白熱するのが当たり前。しかし、白熱した議論こそが、知識を深め、視野を広げるのに役立つのだと思います。複雑な問題を、より多角的に理解し、学ぶ姿勢を持って臨むことが大切だと思います。

卒業研究 / Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

キャリア選択と支援

就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアオフィスの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。また、国際連携学科の学生は、ワシントンD.C.においてさまざまな企業の就職のワークショップに参加できると同時に、日本からも支援を受けることができます。



Student Voice

[卒業研究 / Graduation Research]
身につけたスキルを活かし論理的に書くことを学びたい
櫻井 巴絵 さん (IR専攻4回生)

テーマは「日本の労働市場における多文化共生の実現に向けて」。外国人など多様な背景を持つ人々と協調して働く環境を整備するために、日本の労働市場は何をすべきかを提言したいと考えています。先生、先輩、ゼミ生が、自分では気づかない視点からくれるアドバイスを取り入れつつ完成を目指しています。普段のレポートやライティング・チュートリアルでの経験で、問題設定や論点を広げるコツは身についたので、卒論では、それらを活かしながら論理的に書くことを学びたいと思います。

国際関係学専攻
IR

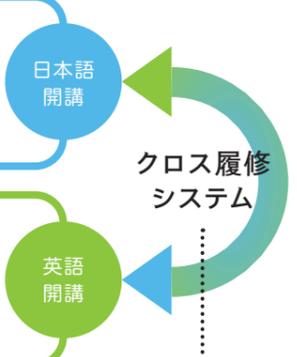
- 基礎演習
- 国際関係学
- 国際連合入門
- 平和学入門
- 法学
- 経済学
- 政治学
- 社会学
- 言語学
- 文化人類学
- 国際英語 (EIS)
- 初修外国語
- 国際経済学
- 国際政治学
- 国際文化・社会学
- 地域研究論
- グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)
- 国際関係学セミナー
- ブリッジ科目 (BIS)
- 国際法
- 国際協力論
- 途上国政治論
- 欧米政治史
- 国際ジャーナリズム論
- 比較文化論
- プロフェッショナル・ワークショップ
- 東南アジア研究
- ヨーロッパ研究

グローバル・スタディーズ専攻
GS

- Introductory Seminar
- Theories of International Relations
- Introduction to United Nations
- Introduction to Peace Studies
- Politics for Global Studies
- Economics for Global Studies
- Sociology for Global Studies
- Academic Skills (AS)
- Kyoto and the Japanese Arts
- Macroeconomics
- Global Simulation Gaming (GSG)
- Global Studies Seminar
- Introduction to Area Studies
- International Law
- Security Studies
- Global Political Economy
- Development Studies
- Media and Society
- Microeconomics
- Global Environmental Issues
- Cultural Awareness and Communication
- Race and Ethnicity in the Modern World
- Advanced Seminar
- Peace and Conflict Studies
- International Human Rights
- International Organizations
- International Finance
- International Trade and Investment
- Global Civil Society and Development
- Global Sociology
- International Migration
- Topics in Identity
- Advanced Topics in International Relations
- Graduation Research

アメリカン大学・立命館大学国際連携学科
JDP

- 立命館大学 (京都) で受講する科目: 例 立命館大学から学修を始める際の一例。学習スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。
- Introductory Seminar
 - Theories of International Relations
 - Macroeconomics
 - Microeconomics
 - Japanese Culture
 - Introduction to the United Nations
 - Comparative and Global Governance
 - Introduction to Gender Studies
 - Security Studies
 - Japanese Politics
 - Japanese Society
 - Japanese Economy
 - Japan-United States Relations
 - Advanced Seminar
 - Graduation Research
- アメリカン大学 (ワシントンD.C.) で受講する科目: 例 2020年度に開講を予定している科目です。
- SISU-106 First Year Seminar
 - SISU-206 Introduction to International Relations Research
 - SISU-212 China, Japan and the United States
 - SISU-306 Advanced International Studies Research
 - SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia
 - SISU-359 Environment, Conflict, and Peace
 - SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution
 - SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance
 - SISU-393 International Relations Theory



両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

Global Education

海外留学プログラム

海外留学プログラム
についての詳細はこちら



留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。

2019年度には144名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航する学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートします。留学を経験した学生が留学アドバイザーとして留学相談に対応するほか、危機管理についても事前に情報提供を行います。



イニシエーション型 (初級)

語学力の向上と異文化体験を主要な目的としたプログラムです。海外体験があまりない人や語学レベルが初級者向けの異文化体験・語学修得を中心とした短期研修です。

代表的な留学・海外教育プログラム

- 立命館・昭和ポストン
留学期間：4週間
留学先：アメリカ
- 異文化理解セミナー (20コース)
留学期間：4週間
留学先：アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ドイツ、フランス、スペイン、メキシコ、中国、韓国等

モチベーション向上型 (中級)

交換留学に準ずるレベルで語学力を高めながら 外国語による講義をうけるプログラムです。特定のテーマについての講義やフィールドワークなどを行います。

代表的な留学・海外教育プログラム

- 海外スタディ (3コース)
留学期間：2～4週間
留学先：アメリカ、マレーシア
- 立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム
留学期間：8ヶ月間
留学先：カナダ
- マコーリー大学日豪プログラム
留学期間：7週間
留学先：オーストラリア
- カリフォルニア大学デービス校
留学期間：6ヶ月間
留学先：アメリカ

アドバンスト型 (上級)

正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラム。現地の正規学生と同様に授業を受け、単位を取得します。多くの国際関係学部生がこのアドバンスト型留学に参加しています。

代表的な留学・海外教育プログラム

- ASEANで学ぶ国際PBLプログラム
留学期間：約4ヶ月～5ヶ月間
留学先：インドネシア・タイ
- DUDP (学部共同学位プログラム)
留学期間：2年間
留学先：アメリカ
- 交換留学
留学期間：1年間
留学先：世界31カ国・地域・131大学

奨学金 大学が実施するプログラムには、プログラムの費用や期間等に応じて受給できる「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」があり、皆さんの熱意をサポートします。例えば、1学年間の交換留学プログラムを修了すると30万円が給付されます。

Voice of Students

在学生の声

国際関係学部の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声をWebページで紹介しています。



ポスターセッションで学びの成果を学内外に発表するオープンゼミナール2019で優勝
佐野 吉菜さん、小迫 悠さん
3年生
2020.03.30
ACADEMICS, OPEN SEMINAR



オープンゼミナールで「AI兵器の脅威と国際法における今後の課題」を発表
渡辺 亜海さん、有馬 秀斗さん
3年生
2020.03.30
ACADEMICS, OPEN SEMINAR



誰もが共存できる社会を目指して～東南アジア労働移民ワークショップを開催～
Yusy Widarahestyさん
博士課程後期課程1年生
2020.03.30
INTERNATIONAL, ACADEMICS



助けが必要な人たちを支える存在に
ROBINSON Taylorさん
JDP2年生
2020.03.30
JDP, INTERNATIONAL



日米の懸け橋になるため、多方面から日本を学ぶ
VOGEL Spencerさん
JDP2年生
2020.03.30
JDP, INTERNATIONAL



過去の敗戦の悔しさと先輩の言葉を胸に、世界相撲女子選手権大会に挑む
今日 和さん
国際関係学部3年生
2018.08.19
STUDENT LIFE, ATHLETICS



国際学生を中心に初のTEDx RitsumeikanUを開催（英文記事）
Lin Kengwei さん from Taiwan
4年生
2019.06.20
STUDENT LIFE



Connections Beyond Borders: ジャカルタ(インドネシア)ー京都(英文記事)
Gilang Al Ghifari Lukmanさん
4年生
2019.03.20
ACADEMICS, INTERNATIONAL



学生生活でみつけた夢“世界の国々をつなぐ仕事”
児玉 邦宏さん
国際関係学部4年生
2019.05.07
STUDENT LIFE, ACADEMICS



さまざまな経験をバイオリンの音色に乗せて
山口夏海さん
国際関係学部4年生
2017.06.27
STUDENT LIFE, 留学



Won second place in the Open Seminar
Joe Tien Cen from Indonesia - a 4th year undergrad on the Global Studies Major (GS)
March 30, 2020
ACADEMICS, OPEN SEMINAR



Working towards a better society for through practical engagement
Yusy Widarahesty (Graduate School of IR - 2nd year PhD candidate)
March 30, 2020
INTERNATIONAL, ACADEMICS



Learning Japanese Culture in All Ways to Bridge the US and Japan
VOGEL Spencer a 2nd year student on Joint Degree Program
March 30, 2020
JDP, INTERNATIONAL



Helping people is my ultimate goal in life
ROBINSON Taylor a 2nd year students on Joint Degree Program
March 30, 2020
JDP, INTERNATIONAL



'BBC 100 Women 2019' list - Ritsumeikan University Sumo Club's Hiyori Kon chosen
Ritsumeikan University Sumo Club's Hiyori Kon (College of International Relations - 4th yr.)
October 18, 2019
STUDENT LIFE, ATHLETICS



Connections Beyond Borders from Aiea (Honolulu), to Kyoto
Mari Kumura from the USA - a 3rd year undergrad on the Global Studies Major (GS)
September 04, 2019
INTERNATIONAL, STUDENT LIFE



Bringing TEDx to Ritsumeikan University
Lin Kengwei from Taiwan - 4th year College of International Relations, Global Studies Major (GS)
June 20, 2019
STUDENT LIFE



Connections Beyond Borders: from Jakarta (Indonesia), to Kyoto
Gilang Al Ghifari Lukman from Indonesia - a 4th year undergrad on the Global Studies Major (GS)
March 20, 2019
ACADEMICS, INTERNATIONAL



Connections Beyond Borders from Virginia (USA), to Kyoto
Brensis from the USA - a 1st year undergrad on the Joint Degree Program (JDP)
January 17, 2019
JDP, INTERNATIONAL



STUDENTS of IR
IR students strive on and off campus, in Kyoto and around the world.
国際関係学部の学生たち
www.ritsumei.ac.jp/ir/students/
続きはWebページをご覧ください

Careers

進路・就職

卒業生インタビュー

Web ページでも紹介しています

www.ritsumei.ac.jp/ir/recruit/



VOICE

外務省 在英日本大使館勤務

谷本 卓也 さん

1999年卒業



英国日本大使館前で



イランのハタミ大統領(当時:2002年)と

Q 卒業後、どのような仕事をしてこられたのですか？

入省後、英国とイランで語学研修を行い、在外日本大使館と本省での勤務を繰り返しています。2000年からイラン、2009年からアフガニスタン、2019年から現在まで在英日本大使館で勤務しています。

Q これまでで特に印象に残っている仕事はありますか？

専門言語であるペルシャ語を使った仕事です。イラン勤務時は、イランの核問題が国際的に注目されており、情勢の分析、イラン政府との交渉・意見交換などを行いました。アフガニスタンでも、緊迫した状況下、ペルシャ語に近いダリー語という現地語を駆使して情報収集を行いました。また、総理大臣のイラン訪問、国連総会、即位の礼など、歴史的な舞台に裏方として参加できることに喜びと責任を感じています。

Q 現在のお仕事の内容はどのようなものですか？

一等書記官として、英国政府との交渉や連絡、現地情報の収集・分析に携わっています。専門性を活かし、主に英国の対中東政策や中東・南アジア・アフリカ情勢の収集・分析を行っています。

Q 外交官を目指したのはいつですか？きっかけは何ですか？

歴史が好きで、世界史の舞台を訪れたいと考えていました。大学受験前、高坂正堯先生の『国際政治』を読み、世界史の舞台裏で活躍する外交官を目指ことも考え、国際関係学部に進学しました。

Q 大学時代、特に印象に残っていることは何ですか？

授業でのディベートや議論が印象に残っています。自由貿易体制について議論している時、国際平和のためにも自由貿易を推し進めるべきだと主張すると、クラスメートから「国内の農業生産者がかわいそうだ」と指摘を受けた

ことが忘れられません。この時が、私にとって「日本の国益とは何か」「外交は何のためにするのか」を考えるきっかけになったと思います。

Q 卒業論文のテーマと内容はどのようなものでしたか？

国際社会における法とは何か？という疑問を持っていましたので、国際法と国内法の関係をテーマに、どちらの法が優越するのか、国際法を国内法として適用するための措置などについて研究しました。国連安保理決議を国内法で担保する仕事をしている最中、ふと卒論を思い出した時がありました。

Q 学業以外の生活で印象に残っていることを教えてください。

ESSに所属し、英語でのディベートに熱中していました。全国各地の大会へメンバーと遠征し、他の大学とも交流。図書館で仲間と一緒に調べものした後、閉館まで議論し、さらにカフェや友人宅に行き朝まで議論するなど、大学生にしかできない経験だったと思います。

Q 大学で身につけた力が現在の仕事に活かされていると感じますか？

外交官としての重要な要素の一つは、好奇心だと思います。国際関係学部の学びでは次から次に新しいテーマが現れるので、常にもみずみずしい好奇心を持ち続けることができました。また、授業、サークル、友人との議論は、政策策定や他国の外交官との議論の下地になっていると思います。学生生活の全てが現在の仕事に活かされていると感じています。

Q 立命館大学国際関係学部の魅力は何でしょう？

新しいことに挑戦したい人、世界で活躍したい人が集まり、留学生や帰国子女も多く、英語が飛び交っている。この自由な雰囲気の魅力ですし、その中で学べば、「何かに挑戦したい」という思いを持つようになれると思います。また、京都は学生に優しい街です。外国勤務と東京勤務を繰り返している私にとって、学生時代を京都で過ごしたことは大きな財産です。

進路・就職状況

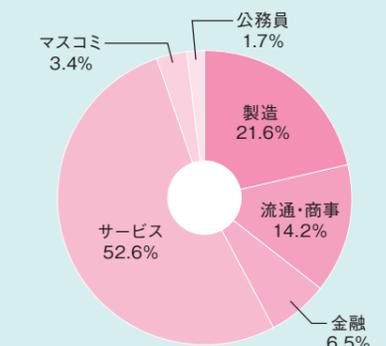
開設30年をむかえ、世界の第一線で8,000名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。世界の有力大学院にも多数進学しています(オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学、サセックス大学など)。

2019年度卒業生 就職先一例

(株) IHI	ダイキン工業(株)	PwCコンサルティング合同会社
アクセントチュア(株)	大和ハウス工業(株)	日立造船(株)
(株) アシックス	(株) 竹中工務店	(株) みずほフィナンシャルグループ
(株) NTTドコモ	トヨタ自動車(株)	三井住友海上火災保険(株)
エミレーツ航空	豊田通商(株)	(株) 三井住友銀行
(株) オリエンタルランド	西日本電信電話(株)	ヤフー(株)
KDDI(株)	日本通運(株)	(株) ユニクロ
サントリーホールディングス(株)	日本電気(株)	ユニリーバ・ジャパン(株)
住友商事(株)	日本放送協会	楽天(株)
全日本空輸(株)	日本マイクロソフト(株)	(株) リクルート
双日(株)	日本アイ・ピー・エム(株)	(株) リコー
ソフトバンク(株)	日本航空(株)	地方公務員(上級職)

50音順



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で100%にならない場合があります。